

【解説】

○ユダヤ教・キリスト教の世界で使われる言葉は、日本語としては馴染みのない意味で用いられている場合がある。たとえば「救われる」という言葉は、集団に対して使うときは「繁栄する」などの意味が適しているが、個人に対して使うときは「希望や自信に満たされる」とか「自立する」などの意味がふさわしいだろう。文脈によって最もふさわしい言葉と入れ替えながら読むようにすれば分かりやすい。

○モーセの十戒の第1～4戒（宗教的規定）の本質は「神の唯一絶対性」と「被造物神格化の拒否」の精神である。

第2戒を単なる「偶像崇拜の禁止」として説明することは、必ずしも適切ではない。崇拜対象として「偶像」だけが禁止されているわけではないからである。この世の中に存在するもの（偶像の材料となる木や石を含めて）は、すべて神によって作られたものだから、この世の中に存在するものは一切崇拜対象としてはならないのである。それが「被造物神格化の拒否」という態度である。なお「偶像」は、英語では「アイドル」である。

第4戒「神の名を唱える」ことを禁止するのは、神の名を呼ぶことは神と人との違いを曖昧にし、神の唯一絶対性を損ねるからである。つまり人は神によって造られた存在であるから、神の名を親しく呼べる立場ではないのである。例えば、私たちが親しい間柄では相手を名前で呼ぶが、そうでない者を名前で呼ぶことはなく肩書などで呼ぶ。

○授業では、旧約聖書目次や、『出エジプト記』・『エレミヤ書』などからの抜粋をプリントして教材にするとよい。